

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 081	提案機関名 神奈川県山林種苗協同組合
要望問題名 無花粉スギの効率的な生産手法の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 無花粉スギの苗木生産は、県の未病対策として重要な位置を占めている。しかしながら、無花粉スギの生産には、多くの人手と時間が必要である。 現在、無花粉スギのさし木は、発根率の向上が大きな課題であり、かつ、コンテナへの直さしによる効率的な手法の確立が必要である。また、無花粉スギの検定は、事前のジベレリン処理に加え、一本一本地面に這いつくばっての作業で、検定を行わなければならないと、年間生産量が数千本となると、現実的に時間がない。さらに、検定期間が冬季の厳寒の中での作業であり、高齢化した苗木生産者の健康を考えると、自ずから限界がある。 このため、無花粉スギのさし木によるコンテナ苗木生産、無花粉スギ検定手法の効率化等をはかることは、緊急の課題であり、早期の研究課題として解決が必要である。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 革新的技術による無花粉苗木生産の効率化・省力化と無花粉品種の実用化(仮称)(実施) 林業技術現地適用化事業(実施中)		
対応の内容等	無花粉スギ生産にあたっては、現在種子による無花粉スギ生産とさし木による生産を行っており、種子では比較的苗木生産は容易なもの、ジベレリンによる着花促進、雄花の検定が必要になっており、林業技術現地適用化事業により苗木生産者に協力して職員の研修等で検定を行っております。この手法は、神奈川県が全国に先駆けて独自に開発した手法であり、技術的には容易なもの、数が増えると大変であることは事実であり改良の必要があります。現在森林総合研究所が農林水産省の公募資金に応募を予定している「革新的技術による無花粉苗木生産の効率化・省力化と無花粉品種の実用化(仮題)」に神奈川県も参画して無花粉スギの検定手法改良が課題化される予定であり、採択されれば新規課題として取組予定です。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			